

藥
虫

くつわむし
轡虫やけに悲しき器かな

愚草

敗戦忌 亡者祈願の列をなし

紙一枚 白木の箱の軽さかな

血に染みた柱に魑魅すだましがみつぎ

靖国の神の鳥居や人柱

神殿にくびれし首こうべあぐらかき

サレコーベ南の島に母をよび

骨壺に一銭五厘の旗をたて

※一銭五厘の旗：花森安治の著書名。戦時中一銭五厘の
ハガキ一枚で召集され戦場に送り出された。

隔世の染色体がはしやぎおり

戦犯のすえた黒黴孫くろかびに咲き

口角の泡虫唱える口三味線

条文をカードの婆ばばに隠し置き

日の丸の矢毒ガエルが弓を張り

迷彩の服をまといしピエロかな

大御神おおみかみナムアマミダブツをふと洩らし

中折帽 鈎十字かぎじゆうじが顔を見せ

黒十字 爪を隠して喰わぬ貌

へらの先尖がりし口に舌禍かな

死の商い裏の砂漠で原発モノを売り

列強の亡者砂漠に巢籠りし

アフリカの砂漠に浸みる涎よだれかな

グローバル悪童わるがきどもが類をよび

もつれあい炉心も国も崩れ陥ち

かわや
廁なし核の尿を垂れ流し
ゆばり

放射漏れ溢るる水が色をなし

神隠しハーメルンも笛を吹き

神様も知らぬは仏の衣かな

ご乱心 原発商い壺の中

掌にとりて回す浮世の絵壺かな

有識者 ほつれし糸の裏表紙

〃 吐いた言葉が嗤いだし

飼育され身のほど舐めて恥を知り

青蠅がゲンの足裏舐めくさり

智を唱え知らぬ馬鹿ほどモノを言い

ご用立てききみみずきん聞耳頭巾が馳せ参じ

神の国剥げばむじな貉の皮ひとつ

金メダル米搗虫も宙返り
こめつきむし

五つの輪空輪のみが回りかね

五輪祭黒幕こそり輪を投げて

〃 経済効果が勇み足

温暖化 貨幣経済火の車

TPP 袋のなかの指角力

帝国の鬼瓦にも化粧かな

※空輪：仏教の宇宙観。虚空。むてつぼう。

神の筆イモリの腹をあかく染め

しようにじょう

猩猩の蜻蛉の翅にしみあり

さなぎいろ

飴色の蛹艶よく腰をふり

たましいを風に揺らしてアケビかな

おはぐろ

翅黒蜻蛉のきようはいずこそ弔いに

じゆず

数珠回し送られ人や送り人

筆洗にあらい流して浮世かな

※猩猩：全身真っ赤に染めたアカトンボ。

バネ仕掛け踊るかいなの撓しなを殺そぎ

小手翳す阿波の殿様へそを曲げ

うつし世の阿呆になれぬ哀しきよ

戯れに造りし虫に手を咬まれ

裸虫 神の触りし悪戯わるさかな

裸虫 わが毒壺もがに蹴もがきおり

水溜り針金虫の苦悶かな

※裸虫：にんげんの異称。

※バネ仕掛け：どこその踊り。

からす瓜ひがしに墜ちて夕陽かな

よみじどり
黄泉鳥啼いてくれるな死出の旅

いざよい
十六夜の月にはりつく家守かな
やもり

からす瓜闇夜に白き絹を裂き

轡虫 木魚の上に陣を取り

クツワムシ苦界浄土を爪弾くや

ほうふら
子子の浮いて寿ぐ浮世かな

※黄泉鳥：とらつくみ。またの名を鶴（ぬえ）。

油照り身を焦がしおり蝉しぐれ

喉ぼとけ苦行苦界の笛ひとつ

消壺に骨をのこして旅がらす

現世うっしょの日陰のわらびつむじ曲げ

蟻地獄 兵法みたりあとじさり

ゴキブリの闇を磨いた小判かな

枕経 鼻を抓んだ蝉が啼き

追星おいほしを黄に染めあげて鮎あし猛り

矢羽やばねたて城をまもるや鮎あしの夏

万象ばんざうの贅ぜいをそぎたる五徳ごとくかな

爆睡せきりようの赤竜せきりよう跳ねて昇天しょうてんし

シテムシや黄泉路一人がのぼり行き

晒首されこうべ北の枕か高いびき

悪徳あくとくの栄えし国むほんに叛旗はんきあれ

※矢羽：石につく鮎のはみあと。 ※赤竜：ミミズの異称。

※シテムシ（埋葬虫）：動物の死骸を喰う甲虫。

秋水の墓に目をやる屯所かな

秋水を縊^{くび}りし国の今が見え

苔むした石の衣にさくら受け

墓陰に蝶一頭の沈みおり

浮き沈み虚舟水面^{みなも}に遊びけり

悲の霰^{しずく}三途の川の嵩を増し

文明の忘れ形見や黙示録

※秋水：幸徳秋水、高知県中村に生る。大逆事件により刑死。
後に冤罪と分かる。

オスプレイみさし鶚しに爪のあるごとし

特秘法 悪魔払いの児を孕め

しみじみと蚯蚓みみずな啾く夜の寒さかな

秋の虫轡しんに籠る鬼哭あり

※特秘法：政府提出の特定秘密保護法案。

※轡：馬に嚙ませる金具。

二〇一三年 晩秋

七八六〇三六

高知県高岡郡四万十町

大正中津川二二〇一一

〇八八〇一七五六六八

佐々木泰 (愚草)